

家庭礼拝ガイド 365 日－7 月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
7/1	伝道者の書 11:1～6	伝道者の書 11:6	続けて種をまく
7/2	伝道者の書 12:1～14	伝道者の書 12:1	若い日に創造者を覚える
7/3	イザヤ 9:1～7	イザヤ 9:6	メシア預言
7/4	イザヤ 40:31	イザヤ 40:31	主を待ち望む者
7/5	イザヤ 43:1～7	イザヤ 43:4	あなたは高価で尊い
7/6	イザヤ 53:1～12	イザヤ 53:5	苦難のしもべ
7/7	エレミヤ 1:4～10	エレミヤ 1:9	エレミヤの召命
7/8	エレミヤ 29:11	エレミヤ 29:11	将来と希望を与える計画
7/9	エレミヤ 36:21～32	エレミヤ 36:32	聞かなければならないことば
7/10	哀歌 3:22, 23	哀歌 3:22, 23	朝ごとに新しい主の恵み
7/11	エゼキエル 18:32	エゼキエル 18:32	悔い改めて、生きよ
7/12	エゼキエル 36:26	エゼキエル 36:26	石の心から肉の心へ
7/13	ダニエル 1:8～21	ダニエル 1:15	備えられた健康と知恵
7/14	ダニエル 3:1～30	ダニエル 3:17	金の像を拝まなかった
7/15	ダニエル 6:1～24	ダニエル 6:10	ダニエル
7/16	ダニエル 9:3～19	ダニエル 9:8, 9	悔い改めの祈り
7/17	アモス 4:12	アモス 4:12	神に会う備え
7/18	ヨナ 1:1～2:10	ヨナ 1:17	魚に飲まれたヨナ
7/19	ヨナ 4:11	ヨナ 4:11	主の憐れみの深さ
7/20	ミカ 6:8	ミカ 6:8	へりくだって神と共に歩む
7/21	ハバクク 2:4	ハバクク 2:4	正しい人は信仰によって生きる
7/22	マラキ 3:10	マラキ 3:10	わたしをためしてみよ
7/23	ヨハネ 1:1～5	ヨハネ 1:1	初めにことばがあった
7/24	ヨハネ 1:12	ヨハネ 1:12	神の子どもとされる特権
7/25	ルカ 1:26～38	ルカ 1:38	マリヤへのみ告げ
7/26	マタイ 1:23	マタイ 1:23	インマヌエルと呼ばれるお方
7/27	ルカ 2:1～7	ルカ 2:7	飼い葉桶の救い主
7/28	ルカ 2:8～20	ルカ 2:11, 12	羊飼いへの知らせ
7/29	ルカ 2:36～38	ルカ 2:38	主を待ち望む生涯
7/30	マタイ 2:1～12	マタイ 2:11	博士たちの礼拝
7/31	ルカ 2:41～52	ルカ 2:52	イエスさまの成長

7月1日

テーマ：「^{つづ}続けて^{たね}種をまく」

聖書箇所：伝道者の書^{でんどうしゃ} 11章^{しよ} 1節^{しやう}～6節^{せつ}

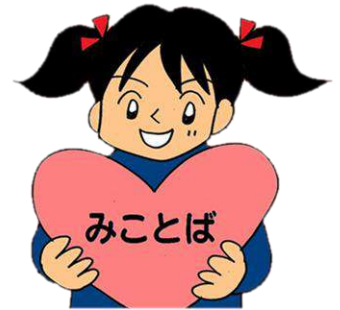
◆今日のみことば

朝^{あさ}のうちにあなたの種^{たね}を蒔^まけ。夕方^{ゆうがた}も手^てを放^{はな}してはいけない。あなたは、あれか、これか、どこで成功^{せいこう}するのか、知らないからだ。二つとも同じようにうまくいくかもわからない。伝道者の書^{でんどうしゃ} 11章^{しよ} 6節^{せつ}

◆メッセージ

あさがおの種^{たね}をまいたことはありますか。あさがおの種^{たね}をまくのに一番^{いちばん}いい季節^{きせつ}は、5月から6月^{がつ}ぐらいですね。種^{たね}をまいても、しばらくは何も起こりません。でも陽^ひのあたる場所^{ばしょ}に置き、毎日^{まいにち}水^{みず}をあげていると、やがて土^{つち}の中から小さな芽^めがでできます。根^ねを張りながらはっぱがどんどん出^だて、つるが伸びて巻きつき、つぼみができ、美しい花^{はな}を咲かせます。花^{はな}がしぼんだ後^{あと}には新^{あた}しい種^{たね}ができます。でも、種^{たね}をまかなければ、何も起こりません。すべては種^{たね}をまくことから始^{はじ}まります。そして、一度^{いちど}にすべての結果^{けっか}、ではなく、時間^{じかん}が必要です。

神^{かみ}さまに従^{したが}って生活^{せいかつ}するのも同じです。まず、なによりも、「みことば」の種^{たね}を、自分の心^{こころ}の中にまきましよう。朝^{あさ}起きた時^{とき}、まず聖書^{せいしょ}を開^{ひら}いてみことばを聞^きき、夕方^{ゆうがた}にも聖書^{せいしょ}を開^{ひら}いて、みことばを聞^きくのです。聞^きいて、従^{したが}いましょう。そうすれば、みことばの種^{たね}を、自分の心^{こころ}の中にまき続けることができます。しばらくは何も起こらないように思^{おも}えるかもしれません。みことばに従^{したが}っても無駄^{むだ}、何も変^かわらない、そう思^{おも}えるかもしれません。あれもだめだったから、これもだめかもしれない、そう思^{おも}えることもあるかもしれません。その時にはこう祈^{かみ}ってください。「神^{かみ}さま、やわらかい良^よい地^ちにしてください。みことばが心^{こころ}の中に根^ねをはれますように。実^みを結^{むす}ぶことができますように。」神^{かみ}さまが、芽^めを出^ださせ、花^{はな}を咲かせ、実^みを結^{むす}ばせてくださるのですから。成功^{せいこう}させてくださるのは、神^{かみ}さまです。種^{たね}が芽^めを出すのには時間^{じかん}もかかります。あきらめないで、忍耐^{にんたい}して。毎日^{まいにち}祈^{かみ}りながら、みことばに聞^きき、みことばに従^{したが}い続けましよう。神^{かみ}さまに期待^{きたい}して、励^{はげ}みましよう。やがて、花^{はな}を見ることができ、実^みりを楽しむことができます。



◆お祈り

「神^{かみ}さまがすべてのことをして下さいます。神^{かみ}さまに期待^{きたい}して、みことばに聞^きき従^{したが}い続けることができますように。」

(杉戸キリスト教会牧師 野町真理)

7月2日

テーマ：「若い日に創造者を覚える」

聖書箇所：伝道者の書 12 章 1 節～14 節

◆今日のみことば

あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。伝道者の書 12 章 1 節

◆メッセージ

素晴らしい人生、輝いた人生、喜びに満ちた人生を送りたいと思っているのでしょうか。そのために必要なことは一つだけです。イエスさまを信じることです。イエスさまを信じると、人生が最高のものになります。イエスさまがそうしてくださるのです。



いつイエスさまを信じたらいいのでしょうか。「あなたの若い日に」というのはいつのことでしょうか。私たちは先のことがわからないので、何年、何月、何日までとは言えません。確かなのは、来年より今年、来月より今月、明日より今日ということです。何がいつ起きるかわかりません。地震や事故などの災害は、突然私たちにおとずれます。その時にイエスさまを信じようと思っても、まにあわないかもしれません。だから、今日。

もし明日を迎えることができたとして、その時にイエスさまを信じることは出来るかも知れません。でも、今日信じないで明日にのぼす人は、明日になったらまた翌日にのぼしてしまうでしょう。そうしているうちに、イエスさまと一緒に生きる人生がどんどん無くなっていきます。それで、人生には「何の喜びもなかった」ということになってしまうのです。

イエスさまを信じた素晴らしい人生。それは、苦しいことや悲しいことが無いということではありません。でも、イエスさまがそばにいてくださって、苦労と一緒にしてくださいます。いつもイエスさまの愛を受けて歩むことができます。だから、先延ばしにしないで、今日、イエスさまを信じましょう。そして、素晴らしい人生をイエスさまからいただきましょう。

◆お祈り

「明日ではなく今、イエスさまを信じます。イエスさまと一緒にいてくださるので、ありがとうございます。」

(新狭山福音教会牧師 島村秀雄)

7月3日

テーマ：「メシア^{よげん}預言」

聖書箇所：イザヤ書^{しよ}9章^{しやう}1節^{せつ}～7節^{せつ}

◆今日のみことば

ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男^{おとこ}の子が、私^{わたし}たちに与^{あた}えられる。主権^{しゅけん}はその肩^{かた}にあり、その名^なは「不思議^{ふしぎ}な助言者^{じよげんしや}、力^{ちから}ある神^{かみ}、永遠^{えいえん}の父^{へいわ}、平和^{へいわ}の君^{きみ}」と呼ばれる。 イザヤ書^{しよ}9章^{しやう}6節^{せつ}

◆メッセージ

メシア（救い主）の誕生^{たんじやう}を預言^{よげん}したイザヤ書^{しよ}が書かれたのは、約2800年前^{やく ねんまえ}、イスラエルの国^{くに}が二つに分かれて、南^{みなみ}のユダ王国^{やうこく}が兄弟^{きやうだい}である北イスラエル王国^{きた}とアラムという国^{やうこく}に攻められた時^{とき}です。ユダは小さな国^{ちい}だったので、一国^{いっこく}だけでは国^{くに}を守る力^{ちから}も希望^{きぼう}もありませんでした。それで、ユダ王国^{やうこく}はアッシリアという国^{くに}の力^{ちから}を借りようとした。しかし、神さまは預言者^{よげんしや}を通して、アッシリアではなく、全能^{ぜんのう}なる神さまを信賴^{しんらい}すること、神さまが与^{あた}えてくださる真^{まこと}の希望^{きぼう}を待ち望む^まことを命じました。真^{まこと}の希望^{きぼう}とはメシアのことでした。



そのメシアはどういうお方^{かた}でしょうか。この方^{かた}の名^なは「不思議^{ふしぎ}な助言者^{じよげんしや}」です。世界^{せかい}の人々^{つみ}は罪^{つみ}と滅び^{ほろ}の道^{みち}を歩^{あゆ}んでいますが、この方^{かた}こそ、真^{まこと}の命^{いのち}の道^{みち}を教え、神さまへ導^{みち}いてくださるカウンセラーです。そして、「力^{ちから}ある神^{かみ}、永遠^{えいえん}の父^{ちち}」です。この方は本当^{ほんとう}の神さまですから、全能^{ぜんのう}の力^{ちから}があります。永遠^{えいえん}におられるお方^{かた}です。それなのに、真^{まこと}の人^{ひと}になってくださいました。罪^{つみ}のない方が、人^{ひと}の罪^{つみ}を代わりに背負^かって、罪^{つみ}を赦^{ゆる}すために人^{ひと}になりました。だから、この方はこの世界^{せかい}が失^{うしな}ってしまった真^{まこと}の平和^{へいわ}を与^{あた}えてくださる方^{かた}、罪^{つみ}によって苦しむ^{くる}全ての人^{すべてのひと}の「平和^{へいわ}の君^{きみ}」と呼ばれます。このメシアは、みどりご＝赤ちゃん^{あか}として生まれます。男^{おとこ}の赤ちゃん^{あか}。だれのことでしょう？

そう、この方がイエス・キリストです。私^{わたし}のために、私^{わたし}の罪^{つみ}を赦^{ゆる}し、私^{わたし}に永遠^{えいえん}の命^{いのち}を与えるために、来^きてくださいました。イエスさまこそ、真^{まこと}の希望^{きぼう}です。信仰^{しんこう}と感謝^{かんしゃ}をもってイエスさまを迎^{むか}えるように祈^{いの}りましょう。

◆お祈り

「イエスさまを心^{こころ}から喜^{よろこ}び、迎^{むか}え入れることができますように。」

（高麗聖書教会牧師 李相勲）

7月4日

テーマ：「主を待ち望む」

聖書箇所：イザヤ書40章31節

◆今日のみことば

しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。
走ってもたゆまず、歩いても疲れない。 イザヤ書40章31節

◆メッセージ

鷲という名前を聞いて何を思い浮かべますか？プロ野球の東北楽天イーグルスやJリーグのベガルタ仙台のマスコットになっているイヌワシのキャラクターは可愛らしいのですが、そもそもは力強い鳥です。ローマ時代などはその強く、美しい姿から王家の紋章や部族のシンボルにされてきました。



しかし、イスラエルの国はそのような鷲の力強さとはかけ離れた状態にあったのです。イザヤさんの時代、その不信仰のゆえにイスラエルは南北に分裂し、国が滅びていく、そのような厳しい時代でした。しかし、この章では「慰めよ、慰めよ」と始まっています。その苦しみの中にある人々に、神さまが慰めと希望を語ってくださいました。国を失い、他の国へ移されていく人々がどのように力を得ることができるのでしょうか。それが、鷲のように。

そのために必要なのは「主を待ち望む」こと。これまでのイスラエルは自分たちの力や他の国々の助けを受けて戦ってきました。そうではなくて、「主を待ち望む」こと、神さまを信頼して求め神さまのなさることを待つこと。ここで「新しく力を得」というのは、今ある力に他の力がプラスされるということではありません。全く異なる力という意味です。そしてそれは、神さまとしっかりと繋がる中でいただくことができるのです。小さな鳥が自分の力でパタパタと羽を一生懸命にはばたかせ上っていくようにではなく、鷲が上昇気流に身を任せて、ピンと張って、上へ上へと上っていくように、自由でおおらかな力です。私たちも主を待ち望み、その信仰によって歩むならば、大変な試練の中でも、上へ、主の力によって上り続けることができるのです。



どんな時でも共におられる主を待ち望み、自分の力や他の人の助けではなく、主の与えてくださる力によって歩んでいきましょう。

◆お祈り

「自分の力や目に見える助けではなく、いつでも私たちを助けようと、恵もうとされている主に頼ることができますように。日々与えられる新しい力の中で歩ませてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

7月5日

テーマ：「あなたは高価で尊い」

聖書箇所：イザヤ43章1節～7節

◆今日のみことば

わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。

イザヤ書43章4節

◆メッセージ

「あなたって、すてき！あなたのこと、大好き！」って言われたら、とってもとっても嬉しいですね。誰からそう言われたいですか。

今日の聖書箇所には、「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」とはっきりと神さまの宣言として記されています。

私たちの周りにはいろいろな目がありますが、一番重要な目は私たちが造ってくださった神さまの目です。この神さまの目から見るなら、あなたは「高価で尊い」のです。「高価で尊い」という意味は「とても大切」で、「あなたの代わりはいない」「大事な宝物」ということです。私たち人間を造られ、生かしてくださっている神さまが、あなたがとても大切、とおっしゃってくださいています。神さまはどれだけあなたを愛しておられるのでしょうか？



ヨハネの福音書3章16節には「神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」と書いてあります。

まさに、ご自分のひとり子であるイエスさまを、私たちの罪の身代わりとして十字架におかけになるほどまでに愛してくださったのです。私たちはみんな自己中心で、

自分勝手です。うそをついたり、意地悪をしたり、わがままを言うてしまう者です。聖い神さまの前には罰を受けなければならない罪人です。しかし、神さまはそのような者を愛してくださり、イエスさまの十字架の死によって罪を赦してくださいました。

神さまは、どんなことがあってもあなたを守ってくださいます。それはあなたが、神さまにとって高価で尊い存在だからなのです。すごくうれしいですね。わたしたちも、神さまを賛美していきましょう。◆お祈り

「天のお父さま。『わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している』と言ってくださいることをありがとうございます。いつもこの恵みを忘れないで、喜びに満ちた神さまの子どもとして歩ませてください。」（グリーンヒル福音教会牧師 山谷豊）



7月6日

テーマ：「^{くなん}苦難のしもべ」

聖書箇所：イザヤ書^{しよ}53章^{しよ}1節^{せつ}～12節^{せつ}

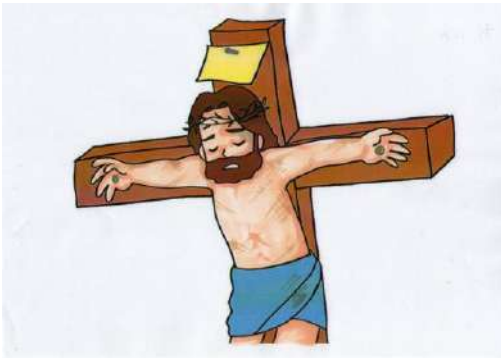
◆今日のみことば

しかし、^{かれ}彼は、^{わたし}私たちの^{つみ}そむきの^さ罪のために^{とお}刺し通され、^{わたし}私たちの^{とが}咎のために^{くだ}砕かれた。^{かれ}彼への^こ懲らしめが^{わたし}私たちに^{へいあん}平安をもたらし、^{かれ}彼の^う打ち傷によって、^{わたし}私たちはいやされた。イザヤ書^{しよ}53章^{しよ}5節^{せつ}

◆メッセージ

イスラエルの^{ひとびと}人々は、自分たちを^{くる}苦しみから^{たす}助け出してくれる^{すく}救い主を、^{なが}長い間、^{まち}待ち続けていました。きっと、^{だれ}誰よりも^{つよ}強そうな、^{えいゆう}英雄のような人を^{ひと}想像していた^{そうぞう}かもしれませんね。でも、^{かみ}神さまのお^{かんが}考えは、^{にんげん}人間の^{そうぞう}想像とは^{まった}全く^{ちが}違っていました。

本当に^{ほんとう}私^{わたし}たちを^{くる}苦しめているのは、^{そと}外の^で敵ではない、^{わたし}私たちの^{うちがわ}内側にある^{つみ}罪なのだとすることを、^{かみ}神さまはよく^{ぞん}ご存じでした。本当は^{ほんとう}私^{わたし}たちを^{つく}造ってくださった^{かみ}神さまに^{したが}従うことが^{わたし}私たちにとって一番^{いちばん}しあわせなのに、それをまるで^{きゆうくつ}窮屈な^{かん}ことのように^{かみ}感じて、^{かみ}神さまの^むことばを^む無視し、^{じぶん}自分^{みち}かって^{すす}な道に進んでしまうのです。このままでは、^{わたし}私たちは^{かみ}神さまから、^{つみ}罪の^{ばつ}罰を受けなければなりません。



このイザヤ書^{しよ}53章^{しよ}に書かれている「^{かれ}彼」とは、^{すく}救い主イエス・キリストを^さ指しています。

そのイエスさまが^{えいゆう}英雄のような^{つよ}強い^{すがた}姿ではなく、^{いた}痛めつけられ、^{くる}苦しむ^{すがた}姿なのは、^{なぜ}なぜでしょうか。それは、^{わたし}私たちが^う受けなければならない^{つみ}罪の^{ばつ}罰を、イエスさまが^か代わりに^う受けてくださる^{すがた}姿だからなのです。イエスさまは、^{わたし}私たちの^{つみ}罪のために^{じゅうじか}十字架にかかって^し死んでくださったのです。イエ

スさまは、^{こひつじ}いけにえの子^{じぶん}羊のように、ご自分を^さ差し出して^{だま}黙って^{わたし}私たちのために^し死んでくださいました。そのおかげで、^{わたし}私たちは^{つみ}罪を^{ゆる}赦され、^{かみ}神さまのもとに^い行くことができるのです。^{なん}何とうれしいことでしょう。^{すく}救い主イエスさまに、^{かんしや}ここから感謝しましょう。

◆お祈り

「イエスさま、^{わたし}私の^{つみ}罪の^{ばつ}罰を^か代わりに^う受けてくださり、^{かみ}ありがとうございます。神さまに^{ゆる}赦されて^い生きる^{めぐ}ことのできる^{かんしや}恵みを感謝いたします。」

(和泉福音教会伝道師 遠藤芳子)

がつ にち
7月7日

しょうめい
テーマ：「エレミヤの召命」

しょう しょう せつ せつ
聖書箇所：エレミヤ書1章4節～10節

ひ
◆今日のみことば

そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしの
ことばをあなたの口に授けた。エレミヤ書1章9節

◆メッセージ

神さまは、いつの時代にも、神さまのために必要な働きをする人を備えています。エルサレム
の近くのアナトテという町に、祭司ヒルキヤの子として、ひとりの男子が生まれました。彼の名前
は、エレミヤさんです。その頃のユダヤの王さまは、長い間、神さまに従わないで悪い政治を行
っていました。そんな中で、エレミヤさんは子ども時代を過ごしました。この悪い時代にも、神さ
まのみことばを伝える人が必要でした。神さまは、人々を愛していて、神さまのもとに戻ってくる
ことを待っておられるからです。

やがてエレミヤさんは青年になりました。ある日のこと、神さまから、「わたしは、あなたをず
っと知っているよ。お母さんのお腹であなたが形造る前から、あなたが生まれる前から。あなた
のことを国々への預言者（神さまのことばを預かって、伝える人）と決めているよ。」との言葉があ
りました。エレミヤさんは戸惑いました。え～、そんなこと言われても。何を話したらいいんだろ
う？こんな悪い時代なのに、みんな僕の言うことを聞いてくれるかな。だから、答えました。「私
はまだ若くて、どう語っていいかわかりません」と。神さまのみことばに、「はい。」と従うことは
大切です。でも、従うことに、不安だなあ、困ったなあと思
うことがあったら、神さまに素直に話していいんですよ。
神さまは、「若くても、大丈夫！人を恐れなくて、わたしに
従いなさい。わたしが、話すことばも教えるよ。わたしは
あなたとともにいて、あなたを救い出すからだ」とエレミヤ
さんを励ましてくださいました。

神さまは、エレミヤさんに、預言者としてのお仕事をする
ためのすべての必要なことを備えてくださいました。「わた
しのことばをあなたの口に授けた」と、神さまの代わりに王さまや人々の前で語る言葉の一つ一つ
がエレミヤさんに与えられたのでした。

私たちが生きているこの時代にも、神さまのみことばが必要です。神さまが一人一人を用いよう
と生まれさせてくださいました。神さまがあなたに望んでおられることを聞きましょう。そして、
従いましょう。神さまが必要なことを備えてくださいます。

◆お祈り

「神さまの望んでおられることを喜んで行うために、すべての必要が備えられますように。」

（のびどめキリスト教会牧師 西澤廣美）



7月8日

テーマ：「^{しょうらい}将来と^{きぼう}希望を^{けいかく}与える計画」

聖書箇所：エレミヤ書^{しよ}29章^{しやう}11節^{せつ}

◆今日のみことば

わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ
——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を
与えるためのものだ。エレミヤ書29章11節

◆メッセージ

有名な物理学者の^{ゆうめい}アインシュタインという^{ひと}人がいます。この人はこのようなことを言いました。
「昨日から^{きのう}学び、今日を^{けふ}生き、明日へ^{あす}期待^{きたい}しましょう。」素敵な言葉ですね。でもどうでしょうか、
「明日へ^{あす}期待^{きたい}しましょう」と言われても、今の世の中ではなかなか
期待^{きたい}することができないのではないのでしょうか。世界中で様々な
災害^{さいがい}が起こっています。また戦争^{せんそう}がなくなることはありません。そ
して日本でも経済的に^{にほん}厳しい時代^{きびしい}となり、就 職^{しゅうしょく}先^{さき}が見つからない
など、子どもや若者が^{わかも}将来^{しょうらい}に期待^{きたい}を持てないような時代^{じだい}となっ
ています。就 職^{しゅうしょく}、結婚^{けっこん}・・・その先の将来^{しょうらい}は？どんな希望^{きぼう}がある
でしょう？



エレミヤさんが^{よげんしゃ}預言者^{はたら}として働いていた時代^{じだい}もそうでした。イスラエルの国^{くに}は南^{みなみ}と北^{きた}に分裂^{ぶんれつ}し、
国^{くに}は滅亡^{めつぼう}していきました。そのような中^{なか}、人々^{ひとびと}は先^{さき}も見えない明日^{あす}に、誰も^{だれ}もが期待^{きたい}などできずにい
たのです。しかし、エレミヤさんは神さまには計画^{けいかく}があること、そしてそれは「わざわざ」ではな
く「将来^{しょうらい}と希望^{きぼう}を与える」ものだとはっきりと伝えました。神さまの計画^{けいかく}は、救い^{すく}を与える計画^{けいかく}で
した。死^しで終わってしまう将来^{しょうらい}ではなく、神さまの愛^{あい}のうちに歩み^{あゆ}、ずっと神さまと生
きていくことができる救い^{けいかく}の計画^{けいかく}。これこそ、希望^{きぼう}！



しかしエレミヤさんの時代^{じだい}の人々^{ひとびと}は、そのように言われてもなかなか信^{しん}じられま
せんでした。暗い心^{くら}を抱^くえたまま、生きることになりました。告^つげられたこと
を必^{かな}ず成^なし遂^とげてくださる神さまが「将来^{しょうらい}と希望^{きぼう}がある」、とおっし
やっているのに、目^めに見えるもの^みで判断^{はんだん}してあきらめるのではなく、
御言葉^{みことば}を信^{しん}じ、愛^{あい}する者のために神さまが用意^{ようい}されてくださる将来^{しょうらい}
を、信仰^{しんこう}を持^もって、待ち望^{まのぞ}んでいきましょう。「信仰^{しんこう}は望^{のぞ}んでいる事柄^{ことばら}を保^ほ証^{しょう}し、目^めに見えないもの^み
を確信^{かくしん}させるものです。」(ヘブル11章1節)

◆お祈り

「様々な出来事^{きざぎざ}が起こる中^{なか}でも、神さまの計画^{けいかく}は私たちに将来^{しょうらい}と希望^{きぼう}を与えるものであること
を信^{しん}じることができるように助^{たす}けてください。」(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

7月9日

テーマ：「聞かなければならないことば」

聖書箇所：エレミヤ書^{しよ}36章^{しやう}21節^{せつ}～32節^{せつ}

◆今日のみことば

王も、彼のすべての家来たちも、これらのすべてのことばを聞きながら、恐れようと
もせず、衣を裂こうとしなかった。
エレミヤ書^{しよ}36章^{しやう}24節^{せつ}

◆メッセージ

自分の失敗や間違いを指摘することばは聞きたくないものです。お父さんやお母さんから叱られるのを、喜んで聞くことなど誰もできませんね。お父さんやお母さんのことば、どんな思いで聞いてますか。神さまのみことばはどうでしょう？



先生であるエレミヤさんから頼まれて、神さまのことばを巻物に記したバルクさんは、その内容を主の宮で人々に読んで聞かせました。このことは国中の話題となり、やがて王さまの耳にも入ります。王さまはその巻物を持ってこさせて家来に読ませました。しかし、それは王さまにとって聞きたくない内容でした。怒った王さまは巻物を切り刻んで、暖炉で焼いて

しまいました。けれど、どれだけ巻物を燃やしても、神さまのことばを消し去ることはできません。なぜなら神さまは永遠に生きておられるお方だからです。神さまは新しい巻物を書くようにエレミヤさんに命じられ、そしてもう一度バルクさんによって神さまのことばは書き記されたのです。

その巻物は、神さまからの忠告のことばでした。「ユダの国はバビロンの国によって滅ぼされる！」国が滅ぶなど、王さまにとってこれ以上に聞きたくないことばはありません。しかしそれは、ユダの人々が罪を認め、反省し、神さまご自身に立ち返るようにと願われた神さまの大切なことばでした。それは聞きたくないことばですが、しかし聞かなければならないことばでした。神さまのことばに耳をふさぎ、神さまのことばをなくそうとしたユダの国は、残念ながら滅ぼされてしまいました。みことばを聞いて、神さまに立ち返ればよかったのに！

神さまのことばは、時として聞きたくないかも知れません。けれど、どれだけ耳をふさぎ、巻物を燃やしたとしても、神のことばを無くすことはできません。ですから、わたしたちは、素直に神のことばに聞き従う者となりましょう。なぜなら、神さまの忠告のことばは、わたしたちを生かすためのものだからです。神さまはいつでもゆるされる準備をもって、わたしたちに忠告の言葉を与えるお方だからです。



◆お祈り

「神さまのことばに、すなおに聞いて従うことができるように、わたしをととのえてください。」

(いのちの樹教会牧師 小見靖彦)

7月10日

テーマ：「朝ごとに新しい主の恵み」

聖書箇所：哀歌3章22節～23節

◆今日のみことば

私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。
それは朝ごとに新しい。哀歌3章23節

◆メッセージ

あなたはお母さんやお父さんに、きびしく叱られたことがありますか。きっとあるでしょうね。いつもはやさしいお母さん、お父さんが、顔をまっかにして、目をつりあげて、そして大きな声で怒っても、あなたが、すなおに「ごめんなさい」とあやまったら、お母さんやお父さんはどうなりましたか。きっと、にっこり笑顔になって、あなたのことをギュッとだきしめて、ゆるしてくれたでしょう。そして、次の日の朝には、お母さん、お父さんは、あなたに「おはよう！」とやさしく語ってくれたはずです。



聖書の神さまも同じです。イスラエルの人々は、神さまがおきらいになること、悲しまれることをいっばいしました。「神さまのいうことなんか、ききたくない!」「神さまなんて、しるもんか!」といって、自分たちの好きなことばかりをしたのです。さすがのおやさしい神さまも、イスラエルの人々があまりにも悪さをやめないで、とうとうお怒りになりました。そして、バビロンという外国の強い国をつかって、イスラエルの人々をうんとこらしめたのです。



でも、イスラエルの人々が、神さまに「ごめんなさい」とすなおにあやまったので、神さまはゆるしてくださいました。あなたのお母さん、お父さんと同じですね。いえ、神さまは、お父さんお母さん以上です。ゆるしてくださいさった神さまは、過去の失敗や悪を責めることはありません。「まったく、いつもこうなんだから。」と前のことを持ち出すこともなさいません。いつも新しい祝福を与えてくださいます。神さまの愛と恵みは、ぜったいなくなることはありません。そして、神さまはあなたのことをけっして一人ぼっちにはなさいません。神さまは、本当にあわれみ深いお方です。神さまの豊かな恵みを感謝しましょう。

◆お祈り

「神さまのぜったいにならない愛と恵みをありがとうございます。きょうも神さまにしがいます。」

(北秋津キリスト教会牧師 浜田進)

7月11日

テーマ：「悔^くい^{あらた}改めて、生^いきよ」

聖書箇所：エゼキエル書^{しよ}18章^{しやう}32節^{せつ}

◆今日のみことば

わたしは、だれが死ぬ^しのも喜^{よろこ}ばないからだ。——神^{かみ}である主^{しゅ}の御告^みげ——だから、悔^くい^{あらた}改めて、生^いきよ。
エゼキエル書^{しよ}18章^{しやう}32節^{せつ}

◆メッセージ

けんか、うそ、盗^{ぬす}み……。最近^{さいきん}、悪い^{わる}ことをして、その悪い^{わる}ことをお父^{とう}さんやお母^{かあ}さんのせいにしたことはありませんか？自分^{じぶん}が悪い^{わる}ことをするのは、お父^{とう}さんやお母^{かあ}さんが悪い^{わる}からだと思^{おも}ったことはありませんか？お父^{とう}さんにもお母^{かあ}さんにも罪^{つみ}があるので、悪い^{わる}ことをすることがあります。悪い^{わる}ことをしない人^{ひと}なんて、この世界^{せかい}のどこにもいません。でも、大切^{たいせつ}なのは、自分^{じぶん}がどうなのかということです。「どうしてこんなことをしたのかな？」と自分^{じぶん}のこととして考^{かんが}えることです。神^{かみ}さまは、私^{わたし}たちが悪い^{わる}ことをするのは、私^{わたし}たちが悪い^{わる}からだと思^{おも}えておられます。誰^{だれ}も、「私は悪^{わる}くない」と言うことはできません。そして、悪い^{わる}ことをそのままにしておくこともできません。なぜなら、神^{かみ}さまは、罪^{つみ}をさばかれるからです。罪^{つみ}の結果^{けっか}は、滅^{ほろ}びです。

でも、神^{かみ}さまは優しいお方^{かた}です。神^{かみ}さまは、私^{わたし}たちが罪^{つみ}を抱^はえたまま滅^{ほろ}びてしまうことを望^{のぞ}んでおられません。滅^{ほろ}びてほしくないと思^{おも}っています。だから、私^{わたし}たちがどんなに悪い^{わる}ことをしたとしても、自分^{じぶん}が悪^{わる}かったことを認^{みと}めて、神^{かみ}さまに「ごめんなさい」と謝^{あやま}り、神^{かみ}さまのことばに從^{したが}うなら、すべての罪^{つみ}を赦^{ゆる}してくださいます。私^{わたし}たちが良いことをするから神^{かみ}さまが赦^{ゆる}してくださるのではありません。神^{かみ}さまが優しいお方^{かた}で、私^{わたし}たちを赦^{ゆる}してくださるので、私^{わたし}たちは神^{かみ}さまを信^{しん}じて、從^{したが}うことができます。

けんか、うそ、盗^{ぬす}みの他^{ほか}にも、悪い^{わる}ことをしてしまうことがあるかもしれません。でも、どんなに悪い^{わる}ことをしても、神^{かみ}さまは優しいお方^{かた}なので、すべてを赦^{ゆる}してくださいます。だから、神^{かみ}さまを信^{しん}じて、從^{したが}いましょう。神^{かみ}さまは、このように言^いわれています。「わたしは、あなたに生^いきて欲^ほしい。だから、悪い^{わる}ことを止^やめて、わたしのことばに從^{したが}いなさい。」



◆お祈り

「私のことを赦^{ゆる}してくださり感謝^{かんしゃ}します。神^{かみ}さまのことばに從^{したが}うことができますように。」

(高崎福音キリスト教会牧師 宗田信一)

7月12日

テーマ：「石の心から肉の心へ」

聖書箇所：エゼキエル書36章26節

◆今日のみことば

あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

エゼキエル書36章26節

◆メッセージ

今日のみことばには、「石」が出てきます。「石」はどのようなものでしょう。かたく、冷たいものですね。「石の心」といえば、神さまの前にかたくなで、冷たい心のことです。

そのような心が、あなたにもあるでしょうか。堅い冷たい石の心は、私たちにもありますね。自分の思い通りにしたい、というがんこな思いです。自分の思い通りにならないと誰かのせいにしたり、おこったりします。自分が一番で、自分がいう通りになんでもしたい思いです。王さまになりたい心です。神さまよりも自分が王さまになりたい心です。そんな私たちの罪の心は、自分の力でなくすことはできません。しかし、神さまが「石の心」を取り除いて、新しい心を与えてくださると言われるのです。



新しく与えられる心は、「肉の心」です。「肉」は、やわらかく、あたたかいものです。与えられる肉の心は、神さまの前でやわらかい、あたたかい心です。肉というと、罪や汚れをイメージすることがありますが、旧約聖書では肉は必ずしも罪や汚れではありません。私たちは自分の力で「石の心」を「肉の心」に変えることはできません。ただ主イエス・キリストを信じるなら変



わることができます。主イエスは、あなたを罪から救うために、十字架についてくださり、三日目によみがえってくださったからです。主イエスさまを信じるなら誰でも新しくされるのです。

神さまは、あなたに新しい心をごくださるばかりか、新しい霊も与えてくださいます。神さまにプレゼントされる新しい霊とは、聖霊なる神さまのことです。聖霊なる神さまによって生かされる新しい歩みが与えられるのです。それは、自分が王さまでなけれ

ば気に入らないことから解放されて、本当の神さまがあなたのすべてとなってくくださる歩みです。自由に笑顔になれるのです。

◆お祈り

「父なる神さま。私の石の心を取り除いてください。自分だけが良ければいいという思いを取り除いて、新しい心をごください。主イエス・キリストのみなによって祈ります。アーメン」

(安中聖書教会牧師 三浦陽子)

7月13日

テーマ：「^{そな}えられた^{けんこう}健康と^{ちえ}知恵」

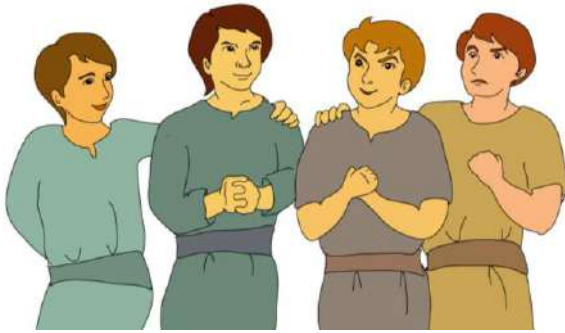
聖書箇所：ダニエル書^{しよ}1章^{しやう}8節～21節^{せつ}

◆今日のみことば

とおか お 十日の終わりになると、かれ かおいろ おう た 王の食べるごちそうを食べているどの少年
よりよ によ 良く、からだも肥えていた。 ^{しよ}ダニエル書^{しやう}1章^{せつ}15節

◆メッセージ

ユダヤの^{くに}国^{ひと}の人たちは、バビロンという外国に連れて行かれて生活することになりました。そんなある日、王さまはダニエルさんたちに、王さまが食べている物と同じごちそうを用意してくれました。どれもみな、おいしそうなものばかりです。しかしダニエルさんたちは、それらを^た食べようとはしませんでした。どうしてでしょうか。そのごちそうには、^{かみ}神さまが^た食べてはいけないと命じられたお肉が入っていたからです。あなたならどうしますか。



そこでダニエルさんは、お世話をしてくれる係の^{ひと}人に言いました。「私たちはこの食べ物^たを食べるわけにはいきません」。それを聞いた係の人は心配して言いました。「どうか食べてください。もし、あなたがたが病気にでもなったら私が王さまに怒られてしまいます」。そこでダニエルさんは係の人に頼みました。「どうか十日間、私たちに野菜と水だけを与えて、試してみてください。そして、王さまのごち

そうを食べている人たちと私たちの^{かおいろ}顔色を比べてみてください。その後、どうするか決めてください」。係の人はダニエルさんの言うことを聞いてくれました。

それからダニエルさんたちは、野菜と水だけで十日間を過ごしました。するとどうしたことでしょう。ダニエルさんたちは、やせもしなかったし、^{かおいろ}顔色もよかったのです。それからは係の人はダニエルさんたちに、野菜と水だけを与えるようになりました。その後、^{のち}神さまの^{かみ}きまりを^{まも}守ったダニエルさんたちに神さまはごほうびをくださいました。それで彼らは国中のどんな人たちよりも賢くなり、王さまの大切なお仕事をするようになりました。

あなたはいつでも、どんなことがあっても、^{かみ}神さまの^{ことば}お言葉を^{ことば}守ることができ
ますか。それはとても大変なことです。けれども、^{かみ}神さまのお言葉を大切に、
それを^{まも}守り行なえば、^{かみ}神さまが必ず^{かならず}助けてくださり、そしてたくさんのごほう
びもくださいます。



◆お祈り

「どんなときでも、どんなことでも、^{かみ}神さまの^{ことば}お言葉に従うことができるよう、^{ゆうき}勇気と^{ちから}力を
あたえてください。」
(大井教会牧師 筒井洋輔)

7月14日

テーマ：「金の像を拝まなかった」

聖書箇所：ダニエル書3章1節～30節

◆今日のみことば

もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。ダニエル書3章17節

◆メッセージ

バビロンのネブカデネザル王は、イスラエルを打ち破って支配しました。王さまは10階建てのビルに相当する高さ26メートルの金の像を立て、ある命令を出しました。「すべての人は、音楽が聞こえたら、ひれ伏して金の像を拝まなければならない。命令に従わない者は、火の燃える炉の中に投げこむ。」人々は音楽が聞こえると、ひれ伏して金の像を拝みました。あなたなら、どうしますか？燃える火の中に投げ込まれるのが恐くて、金の像を拝んでしまうのでしょうか？

ところが、イスラエルから連れて来られた少年のシャデラクさん、メシャクさん、アベデ・ネゴさんは、金の像を拝みませんでした。ダニエルさんと一緒に来た少年たちですよ。本当の神さまを信じていました。「私たちの礼拝するお方は、まことの神さまだけです。私たちの神さまは、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。しかし、もし救われなかったとしても、私たちは金の像を拝むことはしません。」と、少年たちは言いました。すると、王さまは怒って、炉を7倍熱くするよう命じ、3人を炉の中に投げ込みました。とても熱かったので、3人を連れて行った者たちは炎に焼かれてしまいました。



3人は、どうなってしまったのでしょうか？王さまが炉の中をのぞき込むと、燃える火の中で4人の人が歩きまわっているのが見えました。そのうちの一人は、神さまの御使いのようです。王さまは、3人に向かって叫びました。「今すぐ、出て来なさい！あなたがたの神が御使いを送り、あなたがたを救ったのだ！」炎の中から出て来た3人は、髪の毛一本も焦げることはなく、火のおいさえしませんでした。王さまは、まこ

との神さまをほめたたえ、3人に国を治めさせました。

私たちも、3人の少年たちのように、人の言葉を恐れず、神さまの助けを信じましょう。神さまが必ず、私たちを守り、助けてくださいますから。

◆お祈り

「いつも、どんなときでも、神さまの助けを信じて、恐れなくて、神さまだけに従っていくことができますように。」
(新狭山福音教会伝道師 島村真理)

7月15日

テーマ：「ダニエル」

聖書箇所：ダニエル書^{しよ}6章^{しやう}1節^{せつ}～24節^{せつ}

◆今日のみことば

ダニエルは、その文書の署名^{ふんしよ しよめい}がされたことを知^しって自^じ分の家^{ぶん いえ}に帰^{かえ}った。——彼の屋上^{かれ おくじやう}の部屋^{へ や}の窓^{まど}はエルサレム^むに向^むかってあいていた。——彼は、いつも^{かれ}のよう^にに、日^{にち}に三^{さん}度^ど、ひざまずき、彼の神^{かれ かみ}の前^{まえ}に祈^{いの}り、感謝^{かんしや}していた。 ダニエル書^{しよ}6章^{しやう}10節^{せつ}

◆メッセージ

山^{やま}に登^{のぼ}るのが好きな人^すはたくさんいます。でも最初^{さいしよ}から高^{たか}い山^{やま}には登^{のぼ}れません。少しづつ練習^{しんしゆ}して、高^{たか}い山^{やま}に登^{のぼ}れるようになります。信仰^{しんこう}の歩^{あゆ}みもそうではないでしょうか。初^{はじ}めから苦^{くる}しいこと、大^{たい}変^{へん}なことを乗^のり越^こえる力^{ちから}は誰^{だれ}も持^もっていません。御言^{みことば}葉^きを聞^きき、毎^{まい}日^{にち}祈^{いの}り続^{つづ}けることの中^{なか}で、神^{かみ}さまへの信^{しん}頼^{らい}を少しづつ持^もつことができるようになっていくのだと思うのです。

今日^{きやう}の箇^か所^{しよ}では、ダニエルさんがペルシヤのダリヨス王^{おう}に仕^{つか}えていたことが書^かかれています。ダニエルさんには神^{かみ}さまの知^ち恵^えと力^{ちから}が与^{あた}えられていましたので、王^{おう}さまはダニエルさんを頼^{たよ}り、大^{おほ}きな仕^し事^{ごと}を任^{まか}せていました。しかし、それが面白^{おもしろ}くない大^{だい}臣^{じん}たちがいたのです。ねたみの心^{こころ}で彼^{かれ}らは一つ^{ひと}の罠^{わな}をしかけます。それは「これから三十日^{さんじゅうにち}間^{かん}、王^{おう}さま以外^{いがい}を拝^{おが}み、お祈^{いの}りする者^{もの}は獅子^{しし}の穴^{あな}に投^なげ込^こまれる」というものでした。それは、ダニエルさんが毎^{まい}日^{にち}神^{かみ}さまにお祈^{いの}りをしていたことを知^しっていたからです。ダニエルさんは、この命^{めい}令^{れい}が出^だされても、あわてることなく、いつも何^{なに}も変^かわりなく、神^{かみ}さまにお祈^{いの}りしました。神^{かみ}さまが、必要^{ひつよう}な助^{たす}けを与^{たま}えてくださることを体^{たい}験^{けん}してきたからです。前^{まえ}に、偶^{ぐう}像^{ぞう}にささげた肉^{にく}を食^たべなかつたときも、そうだったでしょう。



見^み張^はっていた大^{だい}臣^{じん}たちが「王^{おう}さまの命^{めい}令^{れい}に從^{したが}わなかつた。」と騒^{さわ}ぎ立^たて、つい^いにダニエルさんは、ライオン^{あな}のい^なる穴^{あな}に投^なげ入^いれられてしまいました。ライオン^{かこ}に囲^{かこ}まれて、食^たべられてしまつたでしょう。いいえ、神^{かみ}さまはダニエルさんを守^{まも}ってくださいました。私^{わたし}たちも毎^{まい}日^{にち}御言^{みことば}葉^きを聞^きき、神^{かみ}さまにお祈^{いの}りしましよ。その積^つみ重^{かさ}ねがあればお大^{おほ}きな試^し練^{れん}の前^{まえ}でも、慌^{あわ}てることなく、神^{かみ}さまを信^{しん}頼^{らい}し、その助^{たす}けの中^{なか}で乗^のり越^こえていけるのです。

私^{わたし}たちの生活^{せいかつ}の中^{なか}では、このようなことはな^{おも}いと思^{おも}いますか。しかし、日本^{にほん}でも昔^{むかし}、戦^{せん}争^{そう}中^{ちゆう}には同^{おな}じよう^ななことがあ^{ふた}りました。そし^{かみ}て、再^{ふた}び、まこと^{かみ}の神^いさま以外^{いがい}を礼^{れい}拝^{はい}するよう^{めい}に命^{めい}令^{れい}され^る時代^{じだい}が来^こないとも言^いえませ^ん。そのよう^{とき}な時^{とき}、私^{わたし}たちはどうするで^{とき}しょうか。その時^{とき}になつてから考^{かんが}えても、弱^{よわ}い私^{わたし}たちはきつと慌^{あわ}てるだけになつてしま^あうかもしれませ^ん。いつもと変^かわらずに、と^{かみ}なるよう^{いの}に、神^{かみ}さまに祈^{いの}っていきま^しよう。

◆お祈り

「いつでも、どんなことでも神^{かみ}さまにお祈^{いの}りし、試^し練^{れん}の時^{とき}にも慌^{あわ}てることなく、神^{かみ}さまの助^{たす}けを信^{しん}じることができますように。」
(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

7月16日

テーマ：「悔い改めの祈り」

聖書箇所：ダニエル9章3節～19節

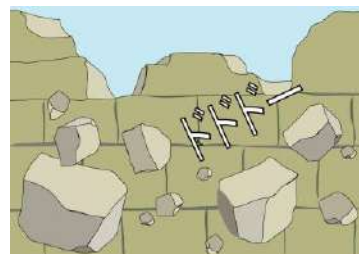
◆今日のみことば

主よ。不面目は、あなたに罪を犯した私たちと私たちの王たち、首長たち、および先祖たちのものです。あわれみと赦しとは、私たちの神、主のものです。これは私たちが神にそむいたからです。ダニエル9章8～9節

◆メッセージ

もし自分が出席している教会の礼拝堂が、誰かによってめちゃめちゃに壊されるようなことがあったらどうでしょう。それは恐ろしいことであり、また悲しいことですよね。

実は、イスラエルの人たちは、それと同じような、いやもっと大変な出来事を経験しました。今からおおよそ2600年前に、イスラエルの人たちは、バビロンという国から攻撃され、神さまを礼拝する大切なエルサレムの神殿を破壊され、さらに奴隷としてバビロンの国に連れて行かれてしまったのです。神さまに愛されていたはずのイスラエルの人たち



なのに、どうしてこんなに

ひどく悲しいことが起きてしまったのでしょうか。

それは、イスラエルの人たちが偶像礼拝という罪、まことの神さま以外のものを礼拝する罪を犯したからでした。その罪に対するさばきとして、神さまはバビロンの国を用いてエルサレムの神殿を破壊し、イスラエルの人たちを奴隷としてバビロンの国に連れて行かせたのです。偶像礼拝に対する神さまのさばきは本当に厳

しいのです。日本には神社参拝など、いろいろな偶像礼拝がありますが、それらに加わることはないように気をつけましょう。

さて、その出来事から47年が過ぎた頃、ダニエルさんは預言者エレミヤさんの書物を通して、神さまのさばきを引き起こしたイスラエルの人々の罪を知ったのでした。その時ダニエルさんは、自分には関係のない昔の人たちの罪とは考えないで、まるで自分の罪のようにそれを告白し、神さまに赦しを願ったのでした。そんなダニエルさんは神さまに喜ばれ、「神に愛されている人よ」と呼ばれています(10:19)。

私たちも罪に気付いたら、素直に認め、神さまにごめんなさいとあやまって赦しを求める人になりましょう。自分の罪だけでなく、自分の家族や教会や国のためにも祈る人になりましょう。

◆お祈り

「天のお父さま、罪に気付いたときには神さまを恐れて素直に罪をみとめ、罪の赦しをいただき、神さまの祝福の中を歩むことができますように助けてください。」

(東御キリスト教会牧師 辻浦信生)

7月17日

テーマ：「神に会う備え」

聖書箇所：アモス書4章12節

◆今日のみことば

それゆえ、イスラエルよ、わたしはあなたにこうしよう。わたしはあなたにこのことを
するから、イスラエル、あなたはあなたの神に会う備えをせよ。アモス4章12節

◆メッセージ

旧約聖書に出てくるアモスさんは、初めから神さまの言葉を語る預言者ではありませんでした。草原で羊のお世話をする羊飼いか、羊飼いの仲間たちをまとめるリーダーのような仕事をしていた人です。いつものように羊のお世話をしていると、「預言者となってイスラエルの人たちにわたしの言葉を語りなさい」と、神さまからお声がありました。

アモスさんの時代には、イスラエルの人たちの心が神さまから離れていたため、礼拝をしている時も心は喜んでいないし、捧げ物をして形だけになっていました。そこで神さまは人々のそのような態度を注意して、正しい礼拝を捧げるように導こうとされたのです。

ところが、いくら注意をしてもなかなか聞いてもらえません。ある時には、神さまはイスラエルの人たちの心が神さまのほうに向くように願い、あれこれといろんな訓練を与えました。けれど



どもイスラエルの人たちの心は神さまから離れたままだったので、「それでも、あなたがたはわたしのもとに帰って来なかった」と言って、神さまは悲しみました。

ついに神さまは、預言者アモスさんを通してイスラエルの人たちに語りました。「あなたの神さまに会う備えをしなさい」と。これはとても厳しいお言葉です。神さまに会う備えというのは、まじめに正しい

心で神さまを礼拝している人なら何も怖くないのですが、真心をもって神さまの前に出ることをせず、喜んで礼拝をささげていない人にとっては、たいへん厳しい裁きがあることを意味しています。だから私たちは、いつでも神さまに会う備えをしていなければいけないですね。

それでは、私たちにとって「神さまに会う備え」とは、どういうことでしょうか。それは、いつも聖書を読み、聖書が伝えている主イエスさまにお会いしたいと願う心のことです。だれでもまじめに聖書を読むならば、いつでも主イエスさまにお会いすることができるのですよ。ですから、聖書を読む前に「今日も主イエスさまにお会いすることができますように」と、心からお祈りしましょう。毎日そのようにしていくことが、神さまに会う備えをしていることになるのですね。

◆お祈り

「天のお父さま、神さまに喜ばれる礼拝を捧げられるように、毎日まじめに聖書を読んでいきます。どうか、今日も主イエスさまにお会いできますように。」

(下馬福音教会牧師 武田順児)

7月18日

テーマ：「^{さかな}魚に^の飲まれたヨナ」

聖書箇所：ヨナ^{しょう}1章^{せつ}1節～2章^{しょう}10節^{せつ}

◆今日のみことば

主は、^{しゅ}大きな^{おお}魚^{うお}を^{そな}備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは、^{みつ}三日^{かみ}三晩^{ばん}、魚^{うお}の^{はら}腹^{なか}の中にいた。
ヨナ^{しょう}1章^{せつ}17節

◆メッセージ

ヨナさんは、神さまから「ニネベの町へ行って、私が言うことを町の人たちに伝えなさい。」とたのまれました。けれどヨナさんは、その町には行きたくなかったので、ちがう町へ行く船に乗りしました。ところが、海は大あらしになってしまい、ヨナさんたちが乗った船が沈みそうになりました。ヨナさんは、あらしの原因が神さまに従わなかった自分にあることに気づき、あらしを静めるために、「私を海に投げ込んでください。」と船に乗っていた人たちにたのんで、海に放り投げてもらいました。すると、ふしぎ、ふしぎ。大あらしがやんで、しずかな海にもどりました。

ヨナさんは、どうなったのでしょうか。ブクブクブク、ヨナさんのからだは海の中に沈み、「もう、だめだ。息ができない。」と思ったとき、何かがすごいいきおいで、近づいてきました。そして、あっという間に真っ暗な中からだごと、すいこまれてしまいました。そう、ヨナさんは、大きな魚に飲み込まれてしまったのです。3日の間、ヨナさんは魚のおなかの中で過ごすことになりました。ヨナさんは、真っ暗やみだけど息もできるし、おぼれる心配もなく、海の中より安全なお魚のおなかの中で、神さまによって助けていただいたのです。そしてその3日間は、神さまの言葉に従わなかった自分の罪を認め、悔い改めるための時間でもありました。



大きな魚を神さまがヨナさんのために用意してくださって、この魚のおかげでいのちが助かりました。ヨナさんは、神さまにたのまれたことをいやだといってにげてしまいましたが、神さまはヨナさんのことを守ってくださいました。この神さまの守りと助けは、私たちにも毎日与えられているものなのです。ですから、神さまの御言葉に喜んで従いましょう。また、間違いに気がついた時には素直にあやまり、神さまの言葉に従っていきましょう。神さまは待っていてくださいます。

◆お祈り

「いつも神さまが守ってくださると信じて、すなおに神さまに従う生活ができますように。」

(水戸福音キリスト教会伝道師 小林浮早子)

7月19日

テーマ：「主の憐れみの深さ」

聖書箇所：ヨナ書4章11節

◆今日のみことば

まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか。

ヨナ書4章11節

◆メッセージ



魚のお腹の中からはき出されたヨナさんは、神さまから命じられたとおりにニネベの人々に神さまのことばを伝えました。ニネベの人々は、ヨナさんのメッセージを聞いて神さまに立ち返りました。ニネベの王さまを初めとして、大人も子どももみんな。しかし、ヨナさんはニネベの人々が悔い改めて神さまに立ち返るのを見て、喜ぶことができませんでした。

神さまは、悪いことをした人であっても、自分の罪を神さまにうちあけて悔い改めるなら、ゆるしてくださるお方です。神さまは、ニネベの人々をゆるしてくださいました。ヨナさんはそのことを怒って、つぶやきました。神さまは、私たちが悪い人だと思う人であっても愛され、その人が神さまに立ち返ることを願っておられることを、ヨナさんに優しく語られました。それが今日のみことばです。神さまは、ヨナさんがニネベの人々に向けられた神さまの愛を知ることをご願われたのです。

この世のすべてのものをつくられた神さまは、つくられたすべてのものを愛しておられます。花も、虫も、動物たちも。そして何よりも人を愛しておられます。なぜなら、人間は神さまに似せてつくられた存在だからです。私たちがお父さん、お母さんに似ていることをお父さん、お母さんが喜び、愛しているように、神さまは神さまに似ている私たちを喜び、愛しておられます。しかし、多くの人が神さまのこころを知らず、神さまから離れて暮らしています。それで神さまのこころは、とても痛んでおられます。

今日、神さまは私たちにも、まだ神さまのことを知らずにいる人々に向けられた神さまの愛を知ってほしいと優しく語っておられます。その神さまのこころを覚えて、私たちも愛をもってまだ神さまのことを知らずにいる人々に会い、神さまのことを伝えましょう。

◆お祈り

「私たちが今日会える一人ひとりが神さまに立ち返りますように。神さまの愛を勇気をもって話すことができるように助けてください。」

(支援教師 咸東筈)

7月20日

テーマ：「へりくだって神とともに歩む」

聖書箇所：ミカ書 6章8節

◆今日のみことば

主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。

ミカ書6章8節

◆メッセージ

私たちは、毎日のニュースで政治家など偉い人たちが自分のためにお金を使ったことが報じられたり、時には逮捕されたりすることをテレビなどで見えています。そのようなニュースを聞くと、本当に残念ですし、この世の中で何が正しいのか、考えてしまいます。

預言者のミカさんの時代も同じようでした。その中でミカさんは「公義を行い、誠実を愛」することが神さまの求めていることだと言っています。「公義」とは何でしょう。それは神さまの前にすべての人を公平に扱うことです。力やお金のある人々ばかりが得をするような世の中であってはならないのです。しかし、実際には、神さまに仕えるはずの祭司や預言者という人たちも、お金ほしきで正しさを曲げていました。また「誠実」とは決して変わらない神さまの愛をもって人を愛し、親切にすることです。しかし当時の人々は、自分の身を守るために、平気で人を裏切っていました。「神を愛し、隣人を愛する」という大事な戒めも忘れられ、この愛もミカさんの時代には見られなかったのです。

私たちが生きている時代はどうでしょうか。自分の得ばかり求め、盗み、万引き、いじめ、自分を守るための嘘、人を見下して自慢・高慢・・・こんな中、「公義を行い」「誠実を愛する」ことができているでしょうか。こんな時代の中、みんなと同じようにしたくなってしまいそう・・・でも、

神さまが正しいことだよ、と教えてくださっている歩みをしたいですね。それは、「へりくだって神と共に歩む」ことです。正しくもなく、愛もないのにまるで正しい者のように歩むのではなく、神さまの前で自分には正しさも愛もないことを認めることがへりくだることです。自分の罪を認めるへりくだりの中で神さまを礼拝していくこと、従っていくことが私たちに望まれていることなのです。

私たちはへりくだり、神さまを礼拝し、共に歩む中で、このような闇のように暗い世の中にあっても、神さまの正しさへ、隣人を愛する者へと変えられていくことができます。

◆お祈り

「神さま、公義を行い、誠実を愛することが難しい時代ですが、へりくだって神さまと共に歩むことができますように。」

(衣笠中央キリスト教会 三浦峰人)



7月21日

テーマ：「正しい人は信仰によって生きる」

聖書箇所：ハバクク2章4節

◆今日のみことば

見よ。彼の心はうぬぼれていて、まっすぐでない。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。
ハバクク2章4節

◆メッセージ

いつでも、どんなときでも神さまに信頼して歩みましょう。間違ったことでも平気でやったり、うそをつく人もいます。それは、神さまを知ることと恐れることもないからです。うぬぼれている人は自分が神になっているからです。そのような人は、他の人に親切にしたり、助けてあげようとは思いません。

私たちはイエスさまを信じて、神さまの子どもにさせていただきました。それは良いことをたくさんしたからではありません。悪いことを一つもしたことがないからでもありません。そんなことは不可能です。ただイエス・キリストが私たちの罪の身代わりになって、十字架にかかって死んでくださったこと。そして、三日目によみがえられたことを信じたからです。

神さまの子どもにさせていただいた人は、神さまにも他の人にも正しく誠実に生きようとしします。他の人をだましたり、裏切ったりしません。かえって、親切にしたいと考えています。神さまはそのような人たちを助けて、良い働きに用いてくださいます。

預言者ハバククさんによって語られた神さまのことばは、カルデヤ人に苦しめられていたユダの人々に告げられました。「あなたがたを苦しめている者たちは、その悪のためにいつか滅ぼされる。だから、あなたがたは神を信じていれば必ず助けられる」という約束です。



あなたのまわりに、あなたをいじめたり困らせたりする人はいませんか。もしいたとしても、悪い心をもってやり返したりする前に、神さまに祈りましょう。神さまがいちばんよいようにしてくださいます。それを信じて待ちましょう。そして悪い誘いに負けないで、間違ったことをすることなく、いつでも神さまを信じている人として生きていけば、倒れることなく歩んでいけます。

もしも自分が間違っていたことに気づいたら、素直に神さまにあやまりましょう。必ず赦していただけます。そして、いつか来る終わりの日にも備えましょう。そのときが来たら悪いものはすべてなくなりますから。

◆お祈り

「いつでもどんなときにも、神さまを信じて離れることがありませんように。そして悪いものに負けることがないように助けてください。」

(世田谷中央教会牧師 安藤能成)

7月22日

テーマ：「わたしをためしてみよ」

聖書箇所：マラキ書^{しよ しょう せつ}3章10節

◆今日のみことば

十分^{じゅうぶん いち}の一をことごとく、宝物倉^{ほうもつくら たずさ}に携^きえて来て、わたしの家の食物^{いえ しょくもつ}とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。——万軍^{ばんぐん しゅ おお}の主は仰せられる——わたしがあなたがたのために、天^{てん}の窓^{まど ひら}を開き、あふれるばかりの祝福^{しゅくふく}をあなたがたに注^{そそ}ぐかどうかをためしてみよ。

マラキ書^{しよ しょう せつ}3章10節

◆メッセージ

預言者^{よげんしゃ}マラキさんのいた頃^{ころ}は、戦争^{せんそう}や飢饉^{ききん}などの大きな苦しみはありませんでした。しかし、人^{ひと}びとは幸^{しあわ}せではありませんでした。それは「神さまとの大切な約束^{かみ}」を忘れていたからです。「約束^{やくそく}」とは何でしょう？それは、「神さまのおことばに従^{したが}うなら、いつも神さまが共にいて、祝福^{しゅくふく}をくださる」という、すばらしい約束^{やくそく}です。ところが、祭司^{さいし}たちはその約束^{やくそく}をちゃんと人^{ひと}びとに教えず、適当^{おし てきとう}に神さまを礼拝^{かみ れいはい}していました。それで、ある人は自分がいらないようなものを神さまにささげたり、ある人は「神さまに従^{したが}わない方が金持ちになれるし、そのために神さまの罰^{ばつ}を受けることはない」と言^いって、いばっていました。そのようなわけで、神さまからの祝福^{しゅくふく}をいただけないので、みんな、不満^{ふまん}でいっぱいだったのです。



そこで、神さまはおっしゃいました。「わたしはあなたがたを愛している。収^{あひ}入^{しゅうにゅう}の十分の一を礼拝^{じゅうぶん いち れいはい}でささげて、天国^{てんごく}に宝^{たから}を積^つんでごらん。そうすれば、わたしは、天^{てん}からあふれるほどの祝福^{しゅくふく}をあなたがたにあげよう。わたしやくそく おも だの約束^{やくそく}を思い出して、ためしてごらん。」

聖書^{せいしよ}には、信仰^{しんこう}の先輩^{せんぱい}アブラハムさんも、十分の一^{じゅうぶん いち}をささげたことが書^かかれています。御子^{み こ}イエスさまも、収^{しゅうにゅう}入^{じゅうぶん いち}の十分の一をささげるようにとおっしゃってお

られます。それは、「持ち物^{も もの}すべては神さまのもの^{かみ}」と考^{かんが}えて、感謝^{かんしゃ}をあらわすことです。十分の一^{いち}をささげたら、わたしのお金^{かね}が減^へってしまう？損^{そん}してしまう？いいえ、天地万物^{てんちばんぶつ}を造^{つく}り、支配^{しはい}しておられる神さまが、ますます豊^{ゆた}かに必要^{ひつよう}なものを与^{あた}えてくださいます。神さまは約束^{かみ やくそく}を必ず守^{まも}られます。けれども、神さまのおことばを無視^{む し}しつつ悪^{あく}を行^{おこな}う人^{ひと}は、最後^{さいご}に火^ひの裁^{さば}きを受けなければならぬと、警告^{けいこく}しておられます。

さて、神さまは、イエスさまの十字架^{じゅうじか}によってあなたの罪^{つみ}を赦^{ゆる}してくださるほど、あなたを愛^{あい}しておられます。苦^{くる}しいことがない時^{とき}ほど、神さまのことを忘^{わす}れて不満^{ふまん}でいっぱいになることがありますませんか？神さまは、あなたにも「わたしをためしてごらん」とおっしゃいます。神さまからいた^{かみ}だっている恵^{めぐ}みを感じ^{かんじや}して、心^{こころ}からの礼拝^{れいはい}と献金^{けんきん}をおささげしましょう。

◆お祈り

「神さま、いつも多くの恵^{めぐ}みで満^みたしてくださり感謝^{かんしゃ}します。約束^{やくそく}を信^{しん}じて、神さまにいちば^{かみ}ん良いものをおささげできますように。」

(小平聖書キリスト教会伝道師 大瀧和子)

7月23日

テーマ：初めにことばがあった

聖書箇所：ヨハネの福音書 1 章 1～5 節

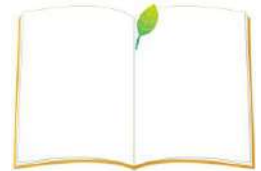
◆今日のみことば

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

ヨハネの福音書 1 章 1 節

◆メッセージ

みんなは日記を書いたり、感想文を書いたり、手紙を書いたりすることがありますか？その時、最初に何と言って始めようかな、と悩むことがありますか。きっと聖書を書いた人たちもそうだったのではないかと、思います。新約聖書には、イエスさまが地上で生きておられた時のことについて書いた人が4人います。彼らはどんなことばで書き始めたのでしょうか。



マタイさんは、イエスさまの系図から始めることにしました。マルコさんは、旧約聖書の預言のことばから始めることにしました。それは読む人たちに、イエスさまが旧約聖書で約束されていた救い主であることを知ってもらうためでした。ルカさんはイエスさまに直接お会いしたことがありません。だからイエスさまに直接会った人たちからちゃんと話を聴いて書きました、という説明から始めました。これから書く内容に間違いはない、と読む人たちに伝えたかったのでしょうか。このようにこの3人の書き始めはとてもわかり

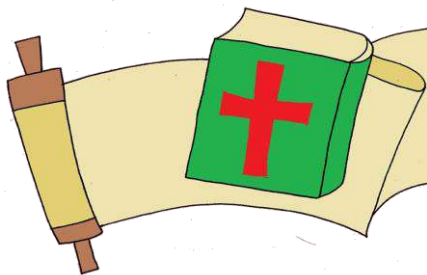
やすいのですが、ヨハネさんが書いたヨハネの福音書だけは、不思議な書き出しとなっています。

ヨハネさんはイエスさまを「ことば」に例えました。おもしろいですね。なぜ「ことば」だったのでしょうか？それまでヨハネさんにとって神を知る方法は、「ことば」（聖書）によってでした。

ところがその聖書の「ことば」が「人」となって自分の目の前に現れたのです。聖書から神さまが飛び出して来た。そんな感じだったのかもしれませんが。「聖書のことば」は神さまからの愛のメッセージ。「聖書のことば」は生きていて力がある。「聖書のことば」はすべての人の希望の光。その「ことば」が人となって現れたのです。イエス・キリストと聖書のことばは同じなのです。ですから信じる価値があるのです。

◆お祈り

きょうもイエスさまに信頼して、イエスさまの教えにしたがって生活することができま
すように。
(石神井福音教会牧師 畑中洋人)



7月24日

テーマ：神の子どもとされる特権

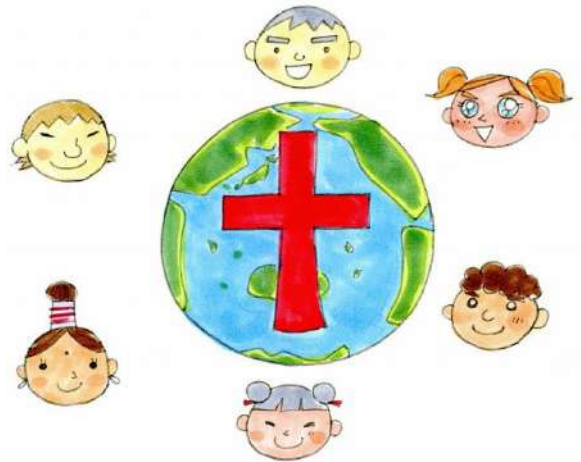
聖書箇所：ヨハネの福音書 1 章 12 節

◆今日のみことば

しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。
ヨハネの福音書 1 章 12 節

◆メッセージ

神さまはこの世界を造ってくださいました。
そして、すべての生き物もその世界で生かして
くださっています。また、地上のすべての人も
神さまによって生かされています。それでも、そ
の神さまを認めている人はそれほど多いわけ
ではありません。人間の心の中には罪があり、そ
の罪が神さまを認めないようにさせているので
す。しかし、罪を持ったままでは天国に行くこと
はできません。神さまは、人の罪をきよめるためにイエスさまを十字架につけてくださ
いました。そのことを信じる人は、神さまの子どもとしていただける、と聖書は教えていま
す。



お父さんやお母さんは、子どもを愛しています。体も心も成長することを願い、見守
り、支えます。必要な物も与えてくれます。悪いものから守ってくれます。子どもを育て
ている親は、子どもが幸せな生活をするのを願っています。神さまも、イエスさまを信
じて「神の子ども」とされた人を愛して、守り導いてくださいます。祈りを聞いてくださ
ること、正しい道に導いてくださること、すべてを益としてくださいます。また、親に似
るように、「神の子ども」とされた人たちを少しずつ変えてくださって、イエスさまの心
を持つようにしてくださいます。やがて、私たちの地上の生活はいつか終わるわけですが、
その先も神さまは私たちに永遠の場所を天において用意してくださっています。神さまの
子どもとされるということは、このようにすばらしいことなのです。もしも祈りがかなえ
られないように思えても、神さまが私たちを忘れているわけではありません。神さまはいつ
でも、「神の子ども」とされた人たちのことを心配し、良い道に導こうとしてくださっている
のです。

◆お祈り

「神さま、『神の子ども』とされたことを感謝します。これからも、喜んで神さまに従う
ことができるようにさせてください。」
(大泉聖書教会牧師 池田尚広)

7月25日

テーマ：マリヤへのみ告げ

聖書箇所：ルカの福音書 1 章 26 節～38 節

◆今日のみことば

マリヤは言った。「ほんとうに、私は主のはしめです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

ルカの福音書 1 章 38 節

◆メッセージ



ナザレという町に、神さまを信じる信仰深いマリヤさんという少女がいました。ある日、マリヤさんの前に、天使ガブリエルが現れ、マリヤさんが男の赤ちゃんを産むことを告げました。マリヤさんはとっても驚きました。「そんなことは起こるはずがない！不可能だ！」と思ったからです。なぜなら、マリヤさんはまだ結婚していなかったからです。ユダヤの社会では、結婚していないのに赤ちゃんがいることがわかれれば、石打ち（死刑）でした。でも、天使は、「その男

の子は救い主だ。」と言いました。救い主を生み育てることは、光栄なことです。戸惑うマリヤさんに、天使はこう答えました。『神にとって不可能なことは一つもありません。』

天使のこの言葉に、マリヤさんはどうしたのでしょうか？ このように答えたのです。「ほんとうに、私は主のはしめ（女性の奴隷）です。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」これは、マリヤさんが神さまのお言葉に従うことを意味します。マリヤさんは自分の思いではなく、天使から告げられた神さまの言葉を信じ、従ったのです。



私たちはどうでしょうか？ 神さまの言葉（聖書）をどのように受け取っていますか？ みことばをただ読むだけ、聞くだけで終わっていませんか？ 「そんなこと起こるはずないよ！」「いくら神さまでも、このことはできないでしょ…」などと、決めつけたり、あきらめたりすることはありませんか？ 教会に行くのは嬉しいこと、でも、「教会に行っていることを学校の友だちに知られたら、何と思われるだろう…」と不安になったりするときもあるかもしれません。けれども、神さまは私たちのそのような心もご存知で、「神にとって不可能なことは一つもありません。」と励ましてください。自分の思いや、他の人の声ではなく、マリヤさんのように、神さまを信じ、みことばに従っていきましょう。

◆お祈り

「神さま。あなたのみことばに従うことができるように助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン。」

（多磨教会伝道所いずみ教会伝道師 瓜生園子）

7月26日

テーマ：インマヌエルと呼ばれるお方

聖書箇所：マタイの福音書 1 章 23 節

◆今日のみことば

「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）

マタイの福音書 1 章 23 節

◆メッセージ

神さまは、ご自分の お心 とご計画を、旧約聖書の中で、預言者をとおして告げられました。そして、神さまが知らせてくださったことは、必ずその通りになりました。神さまは「救い主」のことも、旧約聖書で語られています。



神さまはその救い主として来られる方のことについて、イザヤという預言者をとおして、3つのことを告げられました。1つは、その方は処女（まだ結婚していない女性）から生まれる、ということです。その方が聖霊により誕生することです。普通の人のような、罪の性質を持っていないことを意味します。2つ目は、その方は男の子です、ということです。3つ目は、その方が何をしてくだ

さるか、ということです。インマヌエルと呼ばれる神さまが私たちと共におられる、ということは、私たちのところに来てくださるそのお方は、神さまだということです。神さまが私たちのところに来てくださり、一緒にいてくださいます。私たちの痛みや苦しみや悲しみを知っていてくださり、そばにいて励まし助けくださるお方です。恐れのある時も、神さまが共にいてくださいますから安心です。

また、この方によって、罪と汚れに満ちている私たちが、聖い神さまの御許に、一緒に居ることができるようにしてくださる、ということを語っています。

私たちの救いのために生まれてくださったイエスさまは、このような素晴らしいお方なのです。

◆お祈り

「私たちに罪の赦しの救いを与えてくださるために、素晴らしいお方をおつかわしくさせて、ありがとうございます。」

（中原キリスト教会牧師 常盤馨師）

7月27日

テーマ：飼葉おけの救い主

聖書箇所：ルカの福音書2章1節～7節

◆今日のみことば

男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所
がなかったからである。
ルカの福音書2章7節

◆メッセージ

無事に生まれてきてくれた、小さな赤ちゃん。その顔を見て、お母さんのマリヤさんも、お父さんのヨセフさんも、どんなにうれしく、そしてどんなにほっとしたことでしょう。

ふたりは、ローマ皇帝の命令のせいで、およそ110キロメートルもの旅をしてきたのです。(あとで、おうちから110キロメートルはなれた町はどのへんか、調べてみましょう) もうすぐ赤ちゃんが生まれそうだったおなかの大きいマリヤさんには、さぞ苦しくて、心配な旅だったでしょうね。

ふたりは、すべての人のためにこの世に生まれた神のみ子・救い主イエスさまを、ふたりだけでお迎えしました。とうといお方を、自分の腕の中に抱っこした気持ちとはどんなだったでしょう。つらい旅も、宿屋に入れてもらえなかったことも忘れてしまう幸せを、神さまは、ふたりにくださったのです。



ローマ皇帝の命令に従って、たくさんの人々が故郷ベツレヘムに旅して来ていたので、宿屋はいっぱいでした。だから、イエスさまがお生まれになったのは、馬やロバのいるところでした。イエスさまが寝かされたのは、清潔な布団ではなくて飼葉おけ(馬やロバのエサをいれるおけ)。生まれたばかりの赤ちゃんに「いる場所がなかった」なんて、なんと気の毒なことではありませんか。だれも、あたたかくて安全な部屋を

用意してあげませんでした。でも、私たちは、そのときそこに居合わせた人たちを「冷たい、いじわるな人たち」と言うことができるでしょうか。救い主イエスさまを、そのすばらしさにふさわしく自分の心にお迎えしないなら、私たちもイエスさまを家畜小屋の飼葉おけに追いやってしまった人たちと同じではありませんか。

家の隅っこにも入れてもらえないで、家の外の暗い家畜小屋で、だれも知らないうちにひっそりとお生まれになった、イエスさま。イエスさまは、家畜小屋よりも暗くてもみじめな罪でいっぱいの、私たちのところに来てくださったのです。たとえ歓迎されなくても、喜んで来てくださいました。私たちを、その罪の暗やみから、救い出すためにです。

イエスさまをお迎えしましょう。自分の心の、外ではなく、隅っこでもなく、真ん中に。

◆お祈り

「イエスさま。うまれてきてくださって、ありがとうございます。わたしのこころのなかに、あなたをよろこんでおむかえします。」
(多磨教会 間島昌枝(補教師))

7月28日

テーマ：羊飼いの知らせ

聖書箇所：ルカの福音書2章8～20節

◆今日のみことば

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」

ルカの福音書2章11、12節

◆メッセージ

イエスさまがお生まれになったという喜びは、天使によって、誰よりも先に羊飼いたちに知らされました。けれども、羊飼いたちは喜べませんでした。ユダヤの社会では、安息日を守らない羊飼いは罪人とさげすまれていたからです。自分のことをみじめだと思い、人からのけ者にされているから、神さまから優しくされるわけがないと考えて、天使の知らせをとて怖がりました。ついに神さまがお怒りになって、刑罰を与えるために天使がやって来たと



思ったのです。ところが、天使は「あなたがたのために救い主がお生まれになったのです。救い主は飼葉おけに寝ておられます。それが、あなたがたのためのしるしです。」と教えてくれました。家畜小屋なら、羊飼いたちもとがめられずに行くことができます。

人から認められなかったり、のけ者にされていると思うことがありますか。神さまからも見捨てられて、忘れ去られているのだと考えてしまうことはありませんか。ところが、神さまは私たちが考えたり、感じていることとは全く違うことを考えておられるお方です。羊飼いが恐怖だと思ったことを、喜びだと教えてくださったように。自分は神さまから見れば正しい者ではない、自分勝手なことをしてしまうと気がついて、心から悲しんでいる人を、神さまは慈しみ、助けようと手をさしのべてくださいます。自分は正しくならなければいけない、何でも出来なければいけないと無理をして頑張る必要はないよ、と優しく語ってくださいます。神さまは、ひとり子のイエスさまを、罪人である私たちの救い主として生まれさせてくださったのです。悲しみの人が喜びの人に生まれ変わるために。

羊飼いたちは、天使の知らせの通りにベツレヘムに行きました。とにかく、そのまま。そして、イエスさまにお会いして喜びに満たされました。その喜びを人々にも知らせました。だって、天使の知らせは、この民全体のための知らせ、でしたから。それは私だけでなく、みんなのための知らせでもあるのです。イエスさまは、私たちに救いの喜びをあふれさせてくださいます。



◆お祈り

「悲しみ苦しんでいる人を愛して助けてくださるイエスさまを感謝します。イエスさまといっしょに喜びをもって歩めますように。」 (恋が窪キリスト教会牧師 柿島文人)

7月29日

テーマ：主を待ち望む生活

聖書箇所：ルカの福音書 2章36節～38節

◆今日のみことば

ちょうどこのとき、彼女もそこにいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの
贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。

ルカの福音書 2章38節

◆メッセージ

お父さんのヨセフさんとお母さんのマリヤさんは、イエスさまを連れて、エルサレムの
神殿(神さまを礼拝するところ)に行きました。神さまに感謝をささげ、イエスさまを「主の
ものです」とおささげするためです。そこで、二人の人から声をかけられました。

一人は、シメオンさんという神さまに仕えている正しく敬虔な
おじいちゃん。いつも、イスラエルのために祈り、本当の救いを
待っていました。シメオンさんは赤ちゃんのイエスさまを抱い
て、「私の目があなたの御救いを見た」と神さまをほめたたえまし
た。イエスさまが救い主だとわかったからです。



もう一人は、女預言者のアンナさん。彼女はたいへん年をとって、84歳になっ
ていました。神さまを信じ、神さまの約束を待ち望んで、いつも宮を離れず、夜も昼もお祈り
をもって神さまに仕えていました。それは、人々が神さまを忘れ、自由きままな生活をし



ていたので、争いが多く、悪もはびこっており、貧し
い人が苦しみ、暗い世の中になっていたからです。こん
な世の中、いくら祈っても変わらない、とあきらめない
で祈っていました。神さまは、その祈りを知っていてく
ださいました。だからアンナさんは、イエスさまを見た
とき、長い間待ち望んでいた救い主が来られたことがす
ぐにわかりました。神さまの約束が成就したことを知
って、喜びにあふれました。感謝とともに賛美しまし

た。そして、同じように神さまの救いを待ち望んでいた人々に、イエスさまのことを知ら
せてあげました。

神さまは、神さまのなさることを祈って待つ、日々の生活を知ってくださいます。
今の若い時だけでなく、年をとっても、いつも神さまから離れず、神さまの与えてくださ
る救いの喜びを感謝していきたいですね。

◆お祈り

「いつでもどんな時でも、神さまを信じて待ち望むことができるように導いてくださいます
ように。」
(支援教師 後藤一子)

7月30日

はかせ れいはい
テーマ：博士たちの礼拝

ふくいんしょ しょう せつ
聖書箇所：マタイの福音書2章1～12節

きょう
◆今日のみことば

そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、
宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

ふくいんしょ しょう せつ
マタイの福音書2章11節

◆メッセージ

「あっ、あの星はなんだろう。今まで見たこともない輝きだ。調べてみよう。」

とうほう はかせ おお かがや ほし しょうもつ しら
東方の博士たちは大きく輝く星にびっくりして、たくさんの書物を調べました。すると、ユダヤ
の町に全世界の「救い主」がお生まれになったしるしだ、とわかりました。博士たちはその救い主



あ い せかい すく ぬし
に会いに行くことにしました。だって、世界の救い主は、
はかせ すく ぬし とお とお
博士たちにとっても救い主でしょう？遠い遠いユダヤの
まち む しゅっぱつ なが たび あいだ
町に向かって出発です。長い旅になるので、その間の
た もの もの
食べ物、飲み物、それから？それから？たくさんの荷物を
らくだにのせました。「救い主にプレゼントをもっていこ
う。」王様にささげる黄金、神さまにささげるとても良い
かお にゆうこう し ひと からだ ぬ くすり
香りのする乳香、そして、死んだ人の体に塗るお薬で
もつやく も
ある没薬も持ちました。

なが なが たび つづ とお まち つ あいだ おお かがや
長い長い旅を続け、遠いユダヤの町エルサレムに着きました。その間、ずっと大きく輝くあ
ほし みちあんない つ はかせ おう い
の星が道案内をしてくれたのです。エルサレムに着いた博士たちはヘロデ王のところに行きまし
た。救い主だから、王宮にいるかな、と思ったからです。いえいえ、違いますよね。ヘロデ王に
すく ぬし おうきゆう おも ちが おう
仕える人たちが調べたところ、ベツレヘムであるとわかりました。博士たちは、またベツレヘムに
つか ひと しら はかせ
出発しました。その時も、大きく輝く星は博士たちの道を案内してくれました。と、星がとまり
ました。その家に入ってみると、そうです、イエスさまがおられました。救い主イエスさまにお
あ はかせ おおよろこ ころ れいはい も き たから はこ
会いできた博士たちは大喜びです。心からイエスさまを礼拝しました。また持って来た宝の箱
あ おうごん にゆうこう もつやく おく もの
を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげました。イエス
さまこそ、王、神のみ子、身代わりに死んでくださる救い主、とい
こくはく あらわ
う告白を表しました。

なが たび つづ はかせ すく ぬし あ で き
長い旅を続けて、博士たちは救い主イエスさまにお会い出来たの
です。すごくすごくうれしかったでしょう。私たちも救い主のお生まれ
すく ぬし う
の喜びを神さまに感謝し、博士たちのように心から礼拝する者
よるこ かみ かんしや はかせ ころ れいはい もの
となりましょう。



◆お祈り

「イエスさまが全世界の救い主として生まれてくださって、感謝します。私もイエスさまを救い
ぬし れいはい
主として礼拝します。」

(町田南キリスト教会伝道師 鈴木七絵)

7月31日

テーマ：イエスさまの成長^{せいちょう}

聖書箇所：ルカの福音書^{ふくいんしょ} 2章^{しょう} 41節^{せつ}～52節^{せつ}

◆今日のみことば

イエスはますます知恵が進み、背^せたけも大きくなり、神^{かみ}と人^{ひと}とに愛^{あい}された。

ルカの福音書^{ふくいんしょ} 2章^{しょう} 52節^{せつ}

◆メッセージ

イエスさまの両親^{りょうしん}であるヨセフさんとマリヤさんは、毎年、イスラエルの大きな祭り「過越^{こし}の祭り」^{まつ}に行^いって、神さまを礼拝^{かみ}していました。イエスさまが12歳^{さい}になられたときに、こんなことがありました。

いつものように、エルサレムで過越^{こし}の祭^{まつ}りをして、ナザレへの帰^{かえ}り道^{みち}。二人は恐^{おそ}ろしいこ
とに気づ^ききました。いっしょに行^いった仲間^{なか}の中^{なか}に居^{おも}っていたイエスさまがい
ないの
です。ヨセフさんとマリヤさんは、イエスさまをさがしながら、エルサレムまで引^ひき返^{かえ}
していきました。イエスさまを見つ^みけたのは、帰^{かえ}り道^{みち}を出^{しゅつ}発^{ぽつ}
したはずの神^{しん}殿^{でん}でした。イエスさまは、神^{しん}殿^{でん}で教^{きょう}師^したち
の真^まん中^{なか}にすわ^{はな}し、話^わを聞^きいたり質^{しつ}問^{もん}したりしておられたの
です。聞^きいていた人^{ひと}々はみな、イエスさまの知^ち恵^えと答^{こた}えに
たいへん驚^{おどろ}いていました。イエスさまは知^ち恵^えにあふれてい
て、神^{かみ}さまのみこころをよく理^り解^{かい}していたからです。



イエスさまは両親^{りょうしん}におっしやいました。「どうして心配^{しんぱい}しているのですか。ここは、わ
たしの父^{ちち}の家^{いえ}ですよ。」イエスさまは、ご自分^{じぶん}が神^{かみ}のみ子^こであることを知^しっておられました。
だから、神^{かみ}さまの家^{いえ}である神^{しん}殿^{でん}に居^おることが、イエスさまの喜^{よろこ}びだったのです。

それからイエスさまはナザレに戻^{もど}り、父^{ちち}ヨセフさんと母^{はは}マリヤさんを助^{たす}けながら暮^くらし
ました。ヨセフさんは大工^{だいこう}でしたから、イエスさまは大工^{だいこう}の仕^し事^{ごと}を手^て伝^つい、また、弟^{おとうと}や
妹^{いもうと}たちの世^せ話^わもしたことでしょ。イエスさまは、
家^か族^{ぞく}の中^{なか}で成^{せい}長^{ちやう}しました。身^み体^{たい}も、知^ち恵^えも、心^{こころ}も、
大^{おお}きく豊^{ゆたか}かになりました。

私^わたちも、家^か族^{ぞく}の中^{なか}で生^{せい}活^{かつ}する中^{なか}で成^{せい}長^{ちやう}してい
きます。よく食^たべ、よく学^{まな}び、よく動^{うご}き、よく手^て伝^つい、よ
くみこばに聞^きき、よく人^{ひと}と交^{まじ}わり、よく寝^ねて、大^{おお}きく
なります。神^{かみ}さまにも人^{ひと}にも愛^{あい}されて、成^{せい}長^{ちやう}してゆき
ましょ。

◆お祈り

「神^{かみ}さま。私^わたちもイエスさまの子^こどものこころのよう^{かみ}に、神^{かみ}さまにも人^{ひと}にも愛^{あい}される子^こ
もになれますように。イエスさまのお名^な前^{まえ}によっ^{いの}てお祈^{いの}りします。アーメン

(多磨教会伝道所いずみ教会牧師 瓜生和彦)

